

阪神電鉄で、駅社員の触車事故発生

3月2日20時50分ごろ、兵庫県西宮市の阪神電鉄「鳴尾・武庫川女子大前駅」で、ホームにいた駅社員の男性（20）が進入してきた列車と接触し、搬送先の病院で死亡が確認されました。

駅社員は勤務中で接触の直前、ホームの線路に近い位置で前かがみの姿勢になっていた、と報道されています。

事故の詳細がわからない状況ですが、亡くなられた駅社員の方をはじめ関係者の方々へ心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。



※写真はイメージです 今回の事故とは関係ありません

公共交通機関として、専門性が改めて問われる事象だ！

他社の事故ですが、鉄道経験の浅い駅社員が亡くなるという痛ましい事故に対して、原因の究明と再発防止に向けた議論を深める必要があります。

JR東日本会社では3月12日のダイヤ改正にあわせ、「営業統括センター」が発足されます。今までの「駅ごとの配属」から「エリアごと」に分け、様々な駅への勤務や他系統の社員も兼務・連携をしていく仕組みに変わる施策が始まります。しかし、兼務によって1つの仕事に集中できず、業務中に別のことを考えてしまう事や安全よりも企画業務に重きが置かれる恐れがあります。過度な効率化や運行優先体質が色濃くなり、施策に現場が追い付いていない状況によって、将来的には同様の事故がJR東日本でも起きるのではないのでしょうか？

いのちを守るために専門性を重視し、知識・技能の向上に向け充実した教育や安全第一の要員体制実現に向け、私たちは声をあげ続けていきます。

専門性が高く、安全な輸送サービスが求められている！
足元を見つめなおし、公共交通としての使命を
果たすため「安全第一」の体制を確立すべきだ！